

中学校 編

1 年

「少年の日の思い出」

少年の日の思い出 ヘッセ青春小説集

ヘルマン・ヘッセ/著 岡田朝雄/訳 草思社 B943.7/ハ

幼いゆえに犯してしまう過ちと、消えない思い出。
印象的なセリフを覚えている人も多いのではないのでしょうか。
改めて読み返すと主人公への感情が変わるかもしれないですよ？

1 年

「おとなになれなかった弟たちに…」

おとなになれなかった弟たちに…

米倉斉加年/著 偕成社 H726.6/ヨ

戦争で苦しい生活を強いられたある一家。
「ぼく」は赤ちゃんの弟をかわいがっています。しかしだんだんと
食糧不足がひどくなり、栄養が必要な弟も栄養失調になっていき…

1 年

「ダイコンは大きな根？」

キャベツにだって花が咲く 知られざる野菜の不思議

稲垣栄洋/著 光文社 626/イ

いつも食べているダイコンの知られざる秘密を解き明かすお話です。
「ダイコンのどこまでが根で、どこからが茎なのか」といった誰かに伝えたく
なる解説が盛りだくさんです。自然の不思議な力を本で味わってください。

1 年

「西の魔女が死んだ」

西の魔女が死んだ

梨木香歩/著 新潮社 Y913/ナ

梨木香歩さんの名作。学校へ行きづらくなった少女が森の中で暮らすおばあちゃんのもとで過ごした日常を細やかに描いた作品です。毎日を丁寧に生きることは少しずつ少女の心を回復させていきます。温かい言葉に触れたい方、ぜひ読んでみてください。

1 年

「注文の多い料理店」

銀河鉄道の夜

宮沢賢治/著 谷川徹三/編 岩波書店 913.6/ミ

山奥で狩猟をしていた二人の紳士は山中で「西洋料理店 山猫軒」に出会う。怪しみながら入店すると「当軒は注文の多い料理店ですからどうかそこはご承知ください」と書かれていて…？



1 年

「月夜の浜辺」

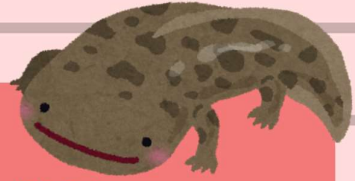
日本語を味わう名詩入門6

中原中也/著 あすなろ書房 91

静かな月夜の波打際で拾った一つのボタンが指先に沁み、心に沁みる。
中原中也による切ない愛着と哀愁漂う詩。
当時の彼のバックボーンを調べてみるとより深く味わえるでしょう。

2 年

「山椒魚」



21 世紀版少年少女日本文学館

太宰治・井伏鱒二/著 講談社 93/二

大きくなりすぎて岩屋の中に閉じ込められたサンショウウオのお話です。
鬱々と偏屈的な山椒魚ですが、そんな岩屋に蛙が入ってきます。
一つ一つのセリフの心情を考えるのが楽しかったと記憶しているお話です。

2 年

「アイスプラネット」

アイスプラネット

椎名誠/著 講談社 Y913/シ

僕のおじ、ぐうちゃんは周りの大人とはちょっと違う。
ぐうたらでほら話ばかりする。けれど、そんなぐうちゃんが僕は
大好きで… 当たり前を疑うことの大切さを知ることができる一冊。

2 年

「走れメロス」

走れメロス

太宰治/著 角川書店 B913.6/夕

「メロスは激怒した」この冒頭の一文だけ知っている方も多いのでは
ないでしょうか？しかし、それだけではありません。
この物語の葛藤や友情に、読後には涙腺が緩むはずです。

3 年

「故郷」

故郷/阿 Q 正伝

魯迅/著 藤井省三/訳 光文社 B923.7/ル

中国での再会のお話です。あんなに無邪気に遊んでいたのに、
お金と立場にとらわれてしまった悲しい大人たち。
どことなく息苦しさを感じました。

3 年

「世界はうつくしいと」

世界はうつくしいと 詩集

長田弘/著 みすず書房 911.56/オ

日々見ているものの尊さに気づける詩です。
些細な瞬間を柔らかに描いた言葉の数々が心に語りかけてきます。
世界を少しでも愛おしく思えるような詩に出会ってみませんか。

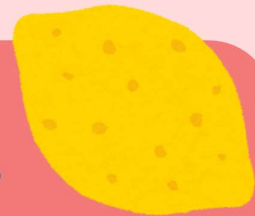
3 年

「レモン哀歌」

日本語を味わう名詩入門 8

高村光太郎/著 あすなろ書房 91

高村光太郎が床に伏せていた妻・智恵子のことを綴った詩集
『智恵子抄』に収録された一遍。白い床ですずしく光るレモンを通して
みる夫婦の愛に込みあがる思いがあります。



コラム

世界で習う図書たち

日本の国語の授業で扱う図書たちを見てきましたが、世界ではどのような作品が読まれているのでしょうか？

・アメリカ

『The Giver』(邦題：ギヴァー 記憶を注ぐ者) 著者：ロイス・ローリー
小学校高学年から中学校で読まれることが多く、1994年にニューベリー賞も受賞している名作。争いやもめごとなどが起こらず、すべての苦痛が取り除かれた、まさに理想郷に見えるものの、人々の感情が制御されたコミュニティで、12歳の少年がただ一人の人類の記憶を受け継ぐ「レシーヴァー」となり、真実を探す旅に出る物語。日本では2014年に映画化もされました。

・スペイン

『La casa de Bernarda Alba』(邦題：ベルナルダ・アルバの家)

著者：ガルシア・ロルカ

二十世紀スペイン最大の詩人・劇作家ガルシア・ロルカの作品です。五人の娘に一切の外出を禁じた母の激しい支配と、その中で娘たちの嫉妬から起こる悲劇が描かれています。また、「血の婚礼」「イエルマ」を加えて、ロルカの三大悲劇とも呼ばれています。

・フランス

『Le Petit Prince』(邦題：星の王子さま)

著者：アントワーヌ・ド・サン＝テグジュペリ

著者であるサン＝テグジュペリは、フランス人作家であり、民間航空の歴史を切り開いた伝説的飛行士でもありました。この作品の背景にも、彼の壮大な人生と大きな時代のうねりが深く関わっています。「l'essentiel(レゾンシエル)=本当に大切なもの」に気づかせてくれるこの物語は、現在500以上の国と地域の言語・方言に翻訳されている大ベストセラーです。

参考文献

・「ギヴァー 記憶を注ぐ者」ロイス・ローリー(著), 島津やよい(訳) 2010.1.8

新評論社出版

・<https://lepetitprince-japon.com/>

・<https://www.iwanami.co.jp/book/b248393.html>